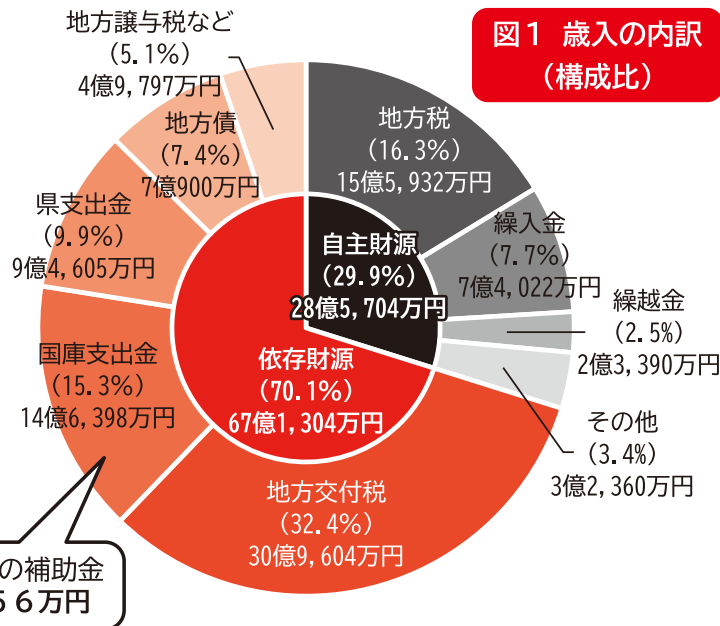


1 歳入

総額 95億7,008万円 (対前年度比 -18億906万円 -15.9%)

- ・玖珠町の収入では地方交付税が最も多く、全体の32.4%を占めています。
- ・収入のうち、自主財源は29.9%、依存財源が70.1%となっており、国や県からの補助金などに依存する構造になっています。



2 歳出

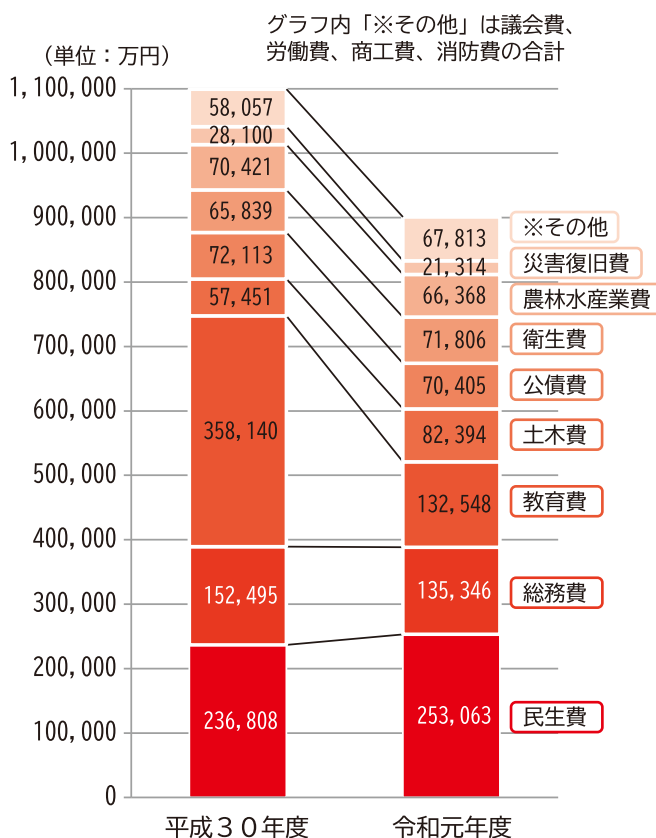
総額 90億1,057万円 (対前年度比 -19億8,367万円 -18.0%)

歳出を目的別に見てみると、民生費や土木費、衛生費は増加しましたが、教育費が大幅に減少しました。これは、前年度に比べて、中学校の建設費用などが減額となったためです。

図2 歳出の内訳 (目的別)

目的別

- 【民生費】障がい者福祉や老人福祉、児童福祉などに使う費用
- 【総務費】町の総括的な事務や税の徴収、統計調査、戸籍、選挙などに使う費用
- 【教育費】小中学校や社会教育、給食センターなど、教育全般に使う費用
- 【土木費】道路や橋りょう、都市基盤整備などに使う費用
- 【公債費】借金を返済するための費用
- 【衛生費】予防接種や環境保全、ごみ処理などに使う費用



令和元年度の決算状況をお知らせします。
昨年度一年間に皆さんに納めていただいた税金や、国や県などからの補助金が、どのように使われたのかを見ていきます。

3 収支

歳入総額から歳出総額を差し引いた額は5億5,951万円です。このうち、翌年度(令和2年度)に繰り越す額 3,084万円を差し引いた額は5億2,867万円となり、**令和元年度の実質収支額は黒字です。**

4 財政健全化判断比率及び経常収支比率の状況

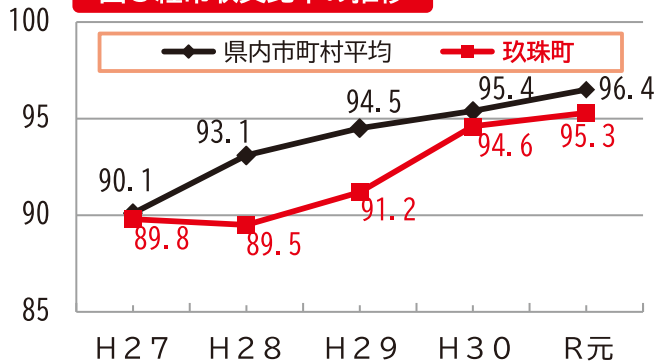
①財政健全化判断比率には以下の4つの指標があります。玖珠町は、黒字なので3つの指標は公表数値がありませんが、黒字の割合を△で表すと表のとおりです。実質公債費比率は、県下で最も低い（良好な）数値です。

玖珠町の財政健全化判断比率算定数値	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
	△10.67	△17.94	2.8	△25.9
早期健全化基準値	15.00	20.00	25.0	350.0
財政再生基準値	20.00	30.00	35.0	—

※いずれか1つでも基準値以上になると、財政危機と判断されます。

②経常収支比率とは、家庭でいえば、毎月の給料に占める食費や光熱費などの生活費やローン返済額などの固定経費割合です。数字が小さければ、将来のために貯金をするなど、財政に余裕があることを意味し、まちづくり事業などを実施しやすくなります。

図3 経常収支比率の推移



5 主な実施事業

特定防衛施設周辺整備調整交付金事業
総合運動公園トレーニングマシン購入事業



社会資本整備総合交付金事業工業団地進入路工事



社会資本整備総合交付金事業
唐杉線法面保護工事



特定防衛施設周辺整備
調整交付金事業
ごみ収集車購入事業



社会資本整備総合交付金事業
神幸橋橋梁補修・補強工事



特定防衛施設周辺整備
調整交付金事業
LED防犯灯設置工事



八幡自治会館
駐車場等整備事業



社会資本整備総合交付金事業
長列線側道拡幅、交差点改良舗装工事

